

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102535
法人名	医療法人社団 修美会
事業所名	グループホームこすもす
所在地	香川県高松市太田下町字東横田1868番地2 (電話) 087-864-5552

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価決定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】(19年10月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 7月 30日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	22人	常勤	17人、非常勤 5人、常勤換算 22.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての2階 ~ 4階部分
------	------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	12,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	450円
	夕食	450円	おやつ	50円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月26日)現在

利用者人数	27名	男性	8名	女性	11名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	67歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	綾田内科、消化器科クリニック、たけい歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には、幼稚園、小、中学校の建物があり、子どもの声や姿が見られる落ち着いた環境で利用者は暮らしている。運営理念「家族のように。我が家のように。いくつになっても、自分らしく生きる。」を基本に、管理者、職員がお互いに理念を共有し、前向きな姿勢で介護サービスの向上に取り組んでいる。利用者は過去の経験を活かしながら、四季の花などを作って、生き生きと生活している。調理場、洗面所、浴室、トイレ等は清潔で、衛生管理も行き届いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価、自己評価を行うことで、ケアサービスの質の向上が図れることを、管理者や職員が自覚しており、外部評価での意見を前向きに捉え、取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は利用者の日々の様子など、気づきを記録しておき、職員全員で話し合い、日常的に自己評価を行って、利用者本位の介護サービスの向上に真摯に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、平均12名の出席者がある。内容は、ホームの現況、職員の状況、ホーム内・外の催し物、家族からの要望、意見に対するホームの対応策について検討したり、意見交換を行っている。会議の内容を収録し、職員に閲覧、必要に応じて介護計画にも反映させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がホーム訪問時に気楽に話し合いができるよう心がけているほか、意見箱を設置して意見等を受けやすくしている。管理者、職員で対応が困難なものは、運営推進会議で第三者の意見も聞き、解決策をとっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会、老人会、市役所、関係機関等と積極的に交流を持っている。また、小、中学校運動会、地域の催物には進んで参加したり、学生のボランティア等を積極的に受け入れ、地域とのつながりを大切にしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として「家族のように。我が家のように。いくつになっても、自分らしく生きる。」を掲げ、人目を引く箇所に掲示している。また、職員全員が理念に基づいて実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はじめ、職員は、毎日の申し送りや朝礼時に理念を復唱し、ホームの方針等を確認しながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会、老人会、市役所関係機関等と積極的に交流を持ち、小、中学校運動会や地域でのイベント等には進んで参加している。また、中学生の職場体験などを積極的に受け入れ、地域とのつながりを大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価、外部評価が介護サービスの質の向上に必要であることを自覚しており、定期的に評価を行うことで、更なるサービスの向上を目指していく姿勢がうかがえる。また、管理者、職員とも評価結果を前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、検討された内容については、職員全員に回覧して、必要に応じて、介護サービスに反映させている。出席者は地域の代表、民生委員、市介護保険課、家族代表、地域包括支援センターの方で、平均12名程度の出席である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム主催で介護セミナーを開催し、地域の方や利用者、家族等に呼びかけ、市職員を講師に依頼している。また、ホームの催物に参加を得たり、防災訓練等の呼びかけを行う等、機会をつくりながら協力を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には、できるだけホーム内の様子や金銭出納などを報告している。また、急を要する場合は、電話連絡を行っている。また、定期的に「こすもす便り」に利用者の実態を写真化して、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは、家族の訪れた際に、家族の意見や不満、苦情などを気楽に話し合えるよう心がけている。また、意見受付箱を設置し、問題がある場合は運営推進会議で話し合い、解決策をとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの方針として、人事異動は必要最小限にとどめ、やむを得ず異動や離職があるときは、あらかじめ利用者や家族に説明し、ダメージを防ぐ配慮をしている。	○	ホームでは、利用者と職員の馴染みの関係を保つことが大切であり、今後も異動や離職を最小限にとどめ、やむを得ず、職員が交代する場合は、利用者へのダメージを防ぐための配慮がさらに望まれる。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識していて、職員が希望する研修に参加できるように、日数の確保や研修費用の援助等を考慮し、ケアの質の向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と定期的に相互訪問し、他のホームの良い面を取り入れるなど、サービスの向上に前向きに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居するにあつては、事前に施設内の見学や体験をする機会を作り、お互いが信頼関係を築きながら、自然に入居できるよう心がけ、馴染める環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一人ひとりに向かい合い、生活を共にしながら、個々の人格を尊重し、暮らしを共に支え合っていることがうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の会話、意見、思いを受け止め、その人の求める暮らしを把握し、職員間で検討しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と接する中で本人のニーズを把握したり、家族の意見など収集しながら職員内で検討し、その人らしく暮らせるよう介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6か月～12か月で見直しを行っているが、利用者の個々の状態や変化によって、家族や関係者と話しあい、臨機応変に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会、外出、外泊など、利用者や家族の希望に応じて、その人の生活を尊重しながら、多機能性を活かして柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を大切にしながら、臨機応変に受診できる体制である。また、医療については、家族と連絡を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在に至って対象者がいない。今後重度化した場合は、早い段階より家族と連絡を密にして、意向を把握し、職員、関係者等が最善の方向性を検討することを確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員に個人情報の保護、管理等の徹底を図っている。また、職員は、利用者一人ひとりのプライバシーの保護を大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や趣味などの情報を収集しながら、その人らしい日々の生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は能力に応じて、職員と共に食事の準備や盛り付けなどを自然に行っており、食事も利用者全員が楽しみながら食べられるよう支援している。片付けは、それぞれが分担して行えるよう職員が支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間帯に関係なく、利用者の希望を大切にして柔軟に支援している。また、利用者の入浴状況を記録して、入浴の少ない利用者には、自然に入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が持っている能力を活かしながら、掃除や洗濯物の片付けなど、個々の役割や楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が、個別に外出や買物、散歩を希望する場合は、柔軟に利用者の意向に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの2階～4階は出口が階段であり、時々錠をかける場合があるが、平常は、あまり目につかないよう出口に観葉植物などを置き、見守りを強化しながら、安全に配慮できる状況を保っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、関係者と共に、消防署の指導のもとに防災訓練を実施したり、地域での防災運動等に参加しながら、近隣からの協力が得られるように働きかけている。	○	今後も引き続き、利用者一人ひとりにあった避難誘導等、利用者の状況をふまえた避難策や災害に備えた備品等はたえず検討を加えて、いつ何時の被災にも対応可能な状況づくりへの取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立のもとで、食事が作られている。個人に合わせた食事形態で、ミキサー状の方や栄養補助食品を使用したり、水分摂取量を個々に記録する等、利用者にあわせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、四季の花を飾るなど工夫している。また、職員は利用者と共に整理整頓を心がけ、不快感がないように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はどの部屋も明るく、窓からは自然の風景が美しく見える。利用者によっては、使い慣れた家具やテレビ、家族の写真等を置き、落ち着ける雰囲気が保たれている。		